

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470800281
法人名	医療法人社団 愛敬会
事業所名	グループホーム 若の山荘
所在地 (電話番号)	伊勢市楠部町若ノ山2605-13 (電話) 0596-23-9090
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 12 月 18 日(木)

【情報提供票より】 (H20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	7,860 円~	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,575円				

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎外科内科 伊勢市立総合病院 田端歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五十鈴川が眼下に流れ、伊勢の聖地や田園風景を一望できる丘の上に位置し、自然環境に恵まれた家庭的な雰囲気のある事業所である。法人が運営する介護老人保健施設や特別養護老人施設が隣接しており、福祉環境も整備されている。理念「いきいき人生のびのび人生」を實踐し、地域医療・福祉に永年、熱意を持って取り組んでいる運営者と看護師としても経験豊かな管理者のもと、職員の質とレベルの均一化を目指し、利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われている。面会にこられた家族から「母がこのホームに一歩足を入れた時から顔色が明るくなり元気になった」との感謝の声があった。利用者一人ひとりのペースを見守る職員との会話は楽しく信頼関係が感じられた。日常的に近隣への散歩や買い物、隣接の老健大浴場での入浴、多くのボランティアの訪問など楽しみごとの多い、和やかで優しい雰囲気を有する事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員ともに評価の意義・目的を良く理解して前回の課題の検討・改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・全職員ともに調査の意義・目的を良く理解して全員で意見を話し合い、今回の自己評価にも取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現時点で8回の運営推進会議が開催され、民生委員、老人クラブ、区長、市役所や家族の参加も多く、それぞれの立場で意見が出され充実した会議になっている。運営推進会議は外部の人の目を通じてグループホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、近隣地域の理解と支援を得る為の貴重な機会である。これからも多くの方がたに呼びかけて定期的に開催し、サービスの向上に活かしていくことが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	少しでも家族が苦情・要望・意見を言いやすいように配慮している。また家族の訪問時になんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それらから出た意見などは運営に反映させている。(調査員の訪問時にもご家族や知人の来訪があり、話が弾んでいた。)
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	運営者は以前より地域医療に取り組んでおり、地域の方がたとの良好な関係が構築されている。また職員・利用者共に地元の人も多く馴染みの方がたや協力者も多い。地域のボランティアの訪問や農作物を届けてくれる方など日常生活における地域との連携は常にとりやすく協力体制も整っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いきいき人生、のびのび人生」を若の山荘の理念として掲げ、この理念を実現する為に地域との付き合いを断ち切らない支援を行なっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のサービス会議(月初のカンファレンス・月末のミーティング)で確認しあい、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者・管理者ともに以前より地域医療に熱意を持って取り組んでおり、地域との関係づくりを大切にしている。運営者・職員・利用者・家族共に顔馴染みの方がたが多く、地域の行事や保育所、幼稚園の運動会、お遊戯会などに参加し地元の方がたとの交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・全職員ともに自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解している。前回評価の改善項目についても全員で検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点で8回の運営推進会議が開催され、民生委員、老人クラブ、区長、行政の方がたや家族の参加も多く、それぞれの立場で意見が出されている。そこから出た意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点があれば伊勢市役所介護保険課に行き情報を得ている。常に行政と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの家族に担当者から「便り」を作成してその月の行事予定や写真なども添え個々にあわせた報告をしている。また「若の山荘だより」も季節ごとに作成している。家族会の開催時や面会時、利用者一人ひとりの様子を個々に伝えている。金銭管理は小遣い帳を作成し家族の承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見や不満・苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族からの意見には些細なことでも速やかに検討し、改善していく体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は異動による利用者へのダメージを充分承知しており、離職者が出ないように事業所の雰囲気づくりに努めている。(異動・離職はほとんどない。)		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が公平に熟練度と研修会のテーマを参考にし外部研修や勉強会に参加している。また受講後は毎月のカンファレンスやミーティングの場などで報告し、職員全員が知識や技術を共有できるように進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に職員が交代で参加し交流の機会をもっている。また近隣のグループホームなどと頻りに交流する機会を持ち、ネットワークづくりや相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者・職員ともに利用者・家族と以前から馴染みの関係の方がたが多い。利用者本人にできるだけ時間をかけて雰囲気に慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうように努めている。(見学、お試し入荘なども行なっている。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として手芸の得意な方やお茶やお花の先生・料理やお菓子づくりの得意な方から教えてもらい、日々支えあいながら信頼関係を構築している。職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身が意見を出せる場面作りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら、日々の表情や行動から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また理念の「いきいき人生のびのび人生」を念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス・家族の面会時に話し合い利用者一人ひとりの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は日々利用者一人ひとりの介護計画と照らしながら変化を家族や関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。3ヶ月に1回の定期的な見直しもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や意見に耳を傾け、家族や本人の状況に応じて法人病院への個別リハビリの送迎や一泊旅行、希望の美容院への付き添いなど、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関の受診を事業所が支援している。(医師である理事長の往診もあり24時間対応する体制も整っている。)		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者はベテランの看護師である。また母体法人の協力も得て家族と繰り返し話し合い職員全員で方針を共有している。家族の希望もあり終末期の対応経験もある。「重度化した場合の対応に係る指針」が作成され「終末期を迎えるにあたって家族の希望」を記載する書面も作成されているが、状態の変化があるごとに家族の思いの変化に留意して支援をしている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら対応している。言葉づかいも穏やかで利用者一人ひとりに、優しい言葉かけや対応である。個人情報の保護も良く理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、職員側の都合を優先するのではなく、散歩や買い物など利用者一人ひとりのペースを大切にして、日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所で採れた作物を使用した献立やおやつ作りは利用者の楽しみになっている。調理や盛り付け、片付けなどは一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にやっている。		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの習慣や意向を大切に、寛いだ気分に入浴を楽しめる支援をしている。「朝風呂(隣接老健の大浴場)・昼風呂・夜風呂」の三通りを楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日々の生活の中で知れた一人ひとりの生活歴を共有しており、得意分野で力を発揮してもらい、仕事をしてもらった後は感謝の言葉を伝えて、張り合いのある暮らしの支援を行っている。また家族や知人やボランティアの訪問も多く楽しみごとの多い事業所である。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの行事や外食・買い物など日常的に戸外へ出掛ける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員ともに鍵をかけることの弊害を良く理解している。職員は利用者の行動を見守り、外へ出掛けたい気持ちを察知したら止めるのではなく、一緒に出掛けるなど安全に配慮しながら支援している。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の防火訓練や夜間想定防災訓練も行っている。消防署の協力を得て利用者や水消火器の使い方などの訓練も行われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接老健の管理栄養士に献立を見てもらい、常に栄養バランスや摂取量に配慮している。個人記録に食事やおやつや水分摂取量や水分量を記録し水分確保の支援をしている。夜間も居室で水分補給が出来るように働きかけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした明るいリビングには季節の生け花や懐かしい写真など居心地良く過ごせる配慮が随所に見られる。また大きな窓からの自然の光や風は心地よく、心安らぐスペースになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者一人ひとりの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		